




—ESD推進ネットワーク全国フォーラム2021—
ESD for 2030
脱炭素社会づくりに向けた
ESD推進ネットワークの役割

2021年12月11日(土曜日)

佐藤真久
 東京都市大学大学院 環境情報学研究所 教授
 m-sato@tcu.ac.jp / masahisasato@hotmail.com

© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 1

脱炭素時代に求められるESD推進ネットワークの姿とは
 —パネル・ディスカッション(10:30-12:30):人材像—



<前半>
持続可能な社会の
担い手づくり
—これまでとこれから—

© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 2

脱炭素時代に求められるESD推進ネットワークの姿とは
 —パネル・ディスカッション(10:30-12:30):人材像—

白井 信雄さん
 (山陽学園大学地域マネジメント学部 教授)

進藤 由美さん
 (公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター国際交流部/総務部 部長)

飯田 貴也さん
 (NPO法人新宿環境活動ネット 代表理事)

関 正雄さん
 (損害保険ジャパン株式会社サステナビリティ推進部 シニアアドバイザー)


服部 乃利子さん
 (静岡県地球温暖化防止活動推進センター センター次長)

モデレーター: 佐藤 真久
 (東京都市大学環境情報学研究所 教授)

© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 3

COP26, Youth Commitment

Press release issued on behalf of the UK COP26 Presidency




QR CODE

- COP President Alok Sharma urges ministers to consider youth priorities in COP negotiations and national climate action
- Young climate leaders join ministers and senior figures in Glasgow
- 23 countries make national climate education pledges including net-zero schools and putting climate at the heart of national curriculums
- Views of over 40,000 young climate leaders presented to ministers, negotiators and officials

<https://unfccc.int/news/young-people-demand-action-to-protect-their-futures-at-cop26>

© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 4

COP26, Youth Statement



ABOUT COP26 · THE TEAM · THE CONFERENCE · GLOBAL YOUTH STATEMENT · OUR PARTNERS · THE HOST CITY · BLOG · MORE INFO

Global Youth Statement

47 479
 Signatures, as of now, to our Global Youth Statement

Thousands of youths from all over the world have come together to demand change from global leaders. Inputs from individuals, environmental organizations and educational institutions have been brought together with the expertise of our policy teams to highlight the most indispensable action points to tackle the ongoing climate crisis. In 15 thematic areas, we urge world leaders at COP26 to once and for all provide the necessary policy framework to win our fight for 1.5°C.

We are here to hold decision-makers accountable for their actions and demand they finally step up their game.

<https://ukcoy16.org/global-youth-statement>

© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 5

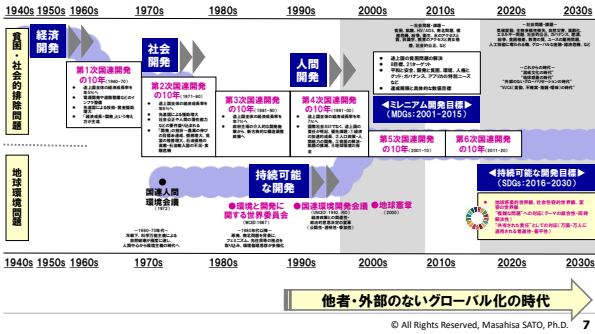
持続可能な社会の担い手づくりに向けた
 社会の変化(世界)



- “大加速化の時代”**
 - 戦後の社会経済の大変化による“地球への相乗的影響”
- “外部のないグローバル化の時代”**
 - 1980年代中葉以降の“経済のグローバル化”
- “地球惑星の時代”**
 - 貧困・社会的排除問題だけではなく、地球資源制約・環境問題への配慮、人権のみではなく自然生存権への配慮
- “混成文化の時代”**
 - グローバルな移動と交流がもたらす文化の混成性(社会基盤や文化の大きな変化)
- “VUCA(変動・不確実・複雑・曖昧)の時代”**
 - 既存の枠組に基づく対応の限界(リスク社会、レジリエンス社会、危険社会化、格差社会化)、状況の対応力の重要性

© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 6

持続可能な社会の構築に向けて
～開発アプローチの変遷(佐藤真久、2020)



SDGs(2016-2030)
～社会背景・世界観・特徴



社会背景	世界観	特徴
<p>①2000年とは異なる社会問題・時代背景</p> <ul style="list-style-type: none"> 大加速化の時代 他者・外部のないグローバル化の時代 地球惑星の時代 混成文化の時代 人間由来の自然変化(人新世) <p>②ありたい社会とありうる社会</p> <ul style="list-style-type: none"> VUCA(変動・不確実・複雑・曖昧)の時代 	<p>①地球惑星の世界観</p> <ul style="list-style-type: none"> Planetary Boundaries 地球の限界 <p>②社会包容的世界観</p> <ul style="list-style-type: none"> No One Left Behind 誰一人取り残さない <p>③変容の世界観</p> <ul style="list-style-type: none"> Transformation 変える・変わる 	<p>①“複雑な問題”への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマの“統合性・同時解決性” パートナーシップ <p>②“共有された責任”としての参画</p> <ul style="list-style-type: none"> 万国・万人に適用される普遍性・公平性 ステークホルダーの役割 <p>③求められる“透明性”</p> <ul style="list-style-type: none"> モニタリング指標の設定 定期的フォローアップ

持続可能な開発目標(SDGs)
2016-2030

SDGsの本質: 変容



Transforming our world :
the 2030 Agenda for Sustainable Development
誰一人取り残されない世界をつくる決意

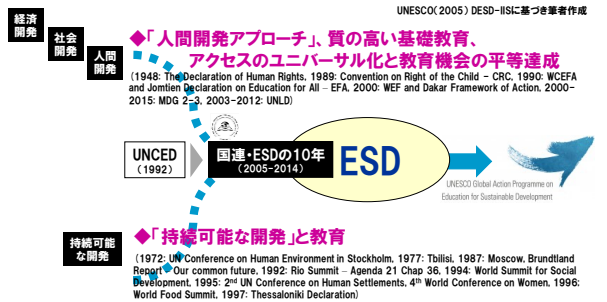


©国連広報局

- 我々は、すべての人々のためによりよい未来を作る決意をする。
- 我々は貧困を終わらせることに成功する最初の世代になり得る。同様に、地球を救うチャンスを持つ最後の世代にもなるかもしれない。(2030アジェンダ 50)

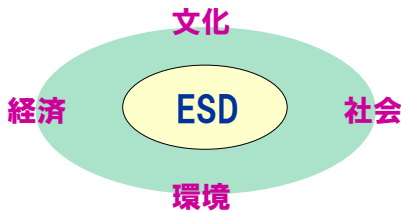
「国連・ESDの10年」(2005-2014)
の振り返り

ESD: 2つの起源(人間開発アプローチと持続可能な開発)



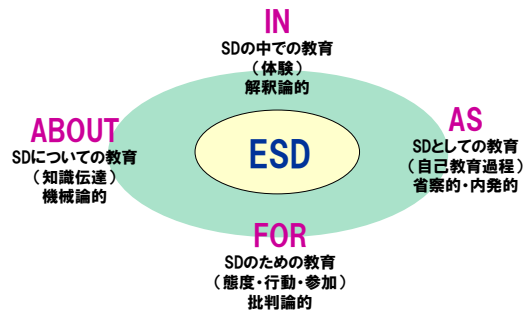
ESDの意味するところ

ESD: 持続可能性に関する諸課題とESD

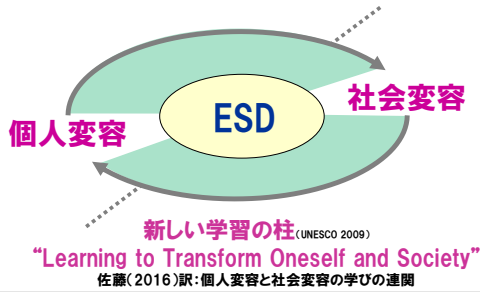


ESDの意味するところ

ESD: 異なる位置づけ(About, In, For and As)



ESD:個人変容と社会変容の学びの連関

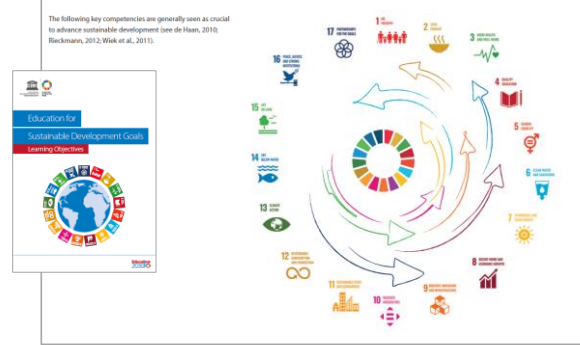


© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 13

The following key competencies are generally seen as crucial to advance sustainable development (see de Haan, 2010; Beckmann, 2012; Weik et al., 2011).



© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 14



© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 15

私たちの未来を共に構想する
教育の新たな社会契約
(UNESCO, 2021)



教育・共通の利益に向かって協働するメンバーの中で暗黙に交わられた合意
基礎となる原理: ① 生涯を通じて質の高い教育の権利を保障、② 共通善としての教育強化
VUCA社会における 個人変容⇄社会変容 / 学習⇄協働 / システム思考⇄デザイン思考 / 課題解決⇄価値共創 / 創造性・コミュニケーション・変容・参加に資するテクノロジー / 公共利益に資する公教育 / 学びの場 / 教育に関わるコミュニティへの社会参加と貢献

Thinking together so we can act together
to make the futures we want.

<https://www.youtube.com/watch?v=j8aXSTN71MY>

© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 16

脱炭素時代に求められるESD推進ネットワークの姿とは
—パネル・ディスカッション(10:30-12:30):人材像—

論点

- ◆社会変容⇄個人変容の取り組み
 - ・気候変動の地元学(統一的、文脈的、批判的、変容的)
 - ・ありたい社会を築く力(デザイン思考)⇄つながらず行動をする力(システム思考)
 - ・ライフスタイルとワークライフの連関性
 - ・ライフスタイル構築、シェア社会の構築
 - ・変容にむけたマネジメント構築、コーディネーター、リーダー・コファッロア
 - ・プロジェクトや活動をベースにしたネットワーク構築
 - ・教材開発、組織プロセスを活かした協働の場づくり、知見蓄積
 - ・ネットワークのハブを活かした、協働の場づくり、社会的学習、超境コミュニケーション
 - ・資本(財務資本、製造資本、知的資本、人的資本、社会関係資本、自然資本)の統合性と持続性
 - ・人権とビジネス(権利論の展開)
 - ・探究実践とシン・SDG(VUCA)社会、変容への意志、統合性、批判的、システム改革へ)
 - ・複雑な問題に向き合う取組(再生可能エネルギー、気候変動など)
 - ・多様な主体、家庭と学校との連携・協働によるモノづくり、情報発信、授業実践→SDGsの自分ごと化
 - ・多様な世代を巻き込む取組の場づくり(企業、保護者、教員、など人が関わる場)
 - ・体系的なプログラムづくり、学習共同体・実践共同体の構築
- ◆これからの人材像
 - ・深い対話・深い学び、問いかけと傾聴、相互理解、深く考える対話(哲学対話)、自己省察、共創、関係性構築 →コミュニケーション
 - ・異なる立場の理解、社会的寛容性、→社会・情動的知性
 - ・自己転換型型人材
 - ・社会変化を感じ、自身で行動し(高校生環境意識)、社会に参加しながら、社会の構造を理解をし(インターンシップ)、協働の場づくりと次世代育成(ユースフォーラム、ユースコミュニケーション構築)
 - ・ユースは年齢層ではなく、多様な属性の存在、ユースの特長をあえて活かす(アビリティ、発信力、ESD/SDGsネイティブ世代、デジタル世代、Z世代としての認識を活かす、ステークホルダーを超えた連携・協働の土台づくり→新しい当たり前/ありたい姿)
 - ・人的資源からの資本へ、
 - ・社会構造を変えていくための意思表示(政策コミュニケーション、ライフスタイルの選択・共創、政治参加、政策評価など)の重要性

© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 17

脱炭素時代に求められるESD推進ネットワークの姿とは
—パネル・ディスカッション(10:30-12:30):ネットワーク—



© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 18

脱炭素時代に求められるESD推進ネットワークの姿とは ーパネル・ディスカッション(10:30-12:30):ネットワークー

- 白井 信雄さん**
(山陽学園大学地域マネジメント学部 教授)
- 進藤 由美さん**
(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター国際交流部/総務部 部長)
- 飯田 貴也さん**
(NPO法人新晋環境活動ネット 代表理事)
- 関 正雄さん**
(損害保険ジャパン株式会社サステナビリティ推進部 シニアアドバイザー)
- 服部 乃利子さん**
(静岡県地球温暖化防止活動推進センター センター次長)

モデレーター: 佐藤 真久
(東京都市大学環境情報学研究所 教授)

© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 19

ESD推進ネットワークの整備

経緯: ESD国内実施計画に基づき、文部科学省と環境省が共同で2016年度にESD活動支援センター(全国センター)を、2017年度に8箇所の地方ESD活動支援センター(地方センター)を開設。
体制: ESD活動支援センター、地方ESD活動支援センター、地域ESD推進拠点、ESD活動支援企画運営委員会が構成。
機能: ①ESD活動を支援する情報共有機能、②現場のニーズを反映したESD活動の支援機能、③ESD活動のネットワーク形成、ESD実践の学びあいの場の促進機能、④人材育成機能



© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 20

全国・地方ESD活動支援センター

項目	概要
拠点の発掘、登録	様々な活動主体の情報収集、拠点候補の探索 訪問、案内、依頼
ネットワーク活動	情報収集・提供 情報項目 最新情報、関連データ、関連書籍の所在、政策動向 モデル事例、教材の案内、体験機会の案内、プログラム例の提供 助成情報、表彰等募集情報、 イベント案内 発信媒体 ウェブサイト、メールマガジン 対面で伝達
ESD実施支援	支援体制整備: 専用回線の電話設置、相談受付メールアドレス運用、相談員常駐 支援内容: 企画助言、講師等紹介、教材紹介、モデル事例案内、その他相談対応
学びあいのネットワーク形成・連携促進 人材育成	フォーラムの企画・開催 セミナー・ワークショップの企画・開催 対話の場作り
ネットワークの方向性の検討	企画運営委員会の開催 有識者候補選定 次期立案と調整、資料準備、開催事務 地域ESD拠点等へのアンケート調査実施

環境省(2021)

© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 21

まとめ: 成果と今後の課題

成果

- ✓ ESD推進のための支援ネットワークを整備。全国的な支援体制を構築。
 - ・ESD全国活動支援センターの開設・運用
 - ・全国8か所のESD地方活動支援センターの開設・運用
 - ・ESD(全国・地方)活動支援センターによる、地域ESD拠点の発掘・巻き込み・登録
- ✓ ESD推進ネットワークの運用による、支援活動の定常化。ESD高度化の取組。
 - ・情報発信
 - ・相談対応、助言、連携促進
 - ・学びの場の提供/人材育成
 - ・ネットワーク力を活用した環境教育の推進(全国ユース環境活動発表大会)

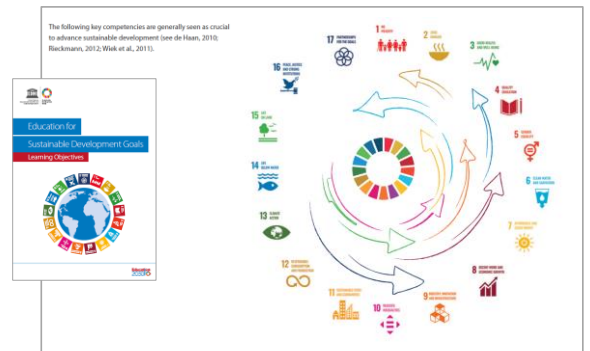
課題

- ✓ ネットワークの拡大。地域に応じた相談が出来る体制の整備。
- ✓ 地域ESD拠点に対する、登録のインセンティブと継続のインセンティブ
- ✓ ネットワーク力のさらなる活用

環境省(2021)

© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 22

持続可能な社会の担い手像 「国連・ESDの10年」/GAPの経験から



© All Rights Reserved, Masahisa SATO, Ph.D. 23

日本のSDGs達成度ランキング2021

持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(SDSN: Sustainable Development Solutions Network)とベルステルマン財団(Bertelsmann Stiftung)によって毎年作成



日本は18位で、一昨年の15位、昨年の17位から連続で順位を落とす。後進は、陸地生態系の保全。一スビルオーバースコア: 他国への波及効果は、OECD加盟国の平均と比較しても若干低い。一「分析」がもたらす弊害一 縦割り組織の分断、官民の分断、現在と未来の分断、地域間の分断、ジェンダーの分断 (https://sdglocal.jp/local-sdgs/)

https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopment.report/2021/2021-sustainable-development-report.pdf, Masahisa SATO, Ph.D. 24

脱炭素時代に求められるESD推進ネットワークの姿とは
—バネル・ディスカッション(10:30-12:30):ネットワーク—

論点

◆VUCA(変動・不確実・複雑・曖昧)社会のネットワークの姿

- カーボンゼロの意味あい(構造的変容、脱プラ、脱物質化、地域活性化、公共圏...)
- 地球環境問題と貧困・社会的排除問題の同時的解決
- 求められる規範性、統合的問題解決
- ネットワークの多層性(目的としての機能、手段としての機能)
- 多様な世代・主体とともにつくるネットワーク
- 多岐に亘る協働、CSV、つながりと活かして行動・協働に活かす
- 協働の場づくり、参加の場づくり、社会生態系
- 協働する学びの場の提供、価値共創
- 多様なネットワークの有機的なつながり(ネットワークの複合性、多層性)
- 多様な世代・主体とともにつくるネットワーク
- 高度経済成長という経済的成功体験が変容を受けにくい一かなが変容にチャレンジできない日本社会
- 生産・消費、インバウト評価
- DX × SX
- 学校の風草管理、NPOの風草管理をやめ、つながり、力を持ち寄る場づくり



パートナーシップの多義性
—手段、目的、権利として—

手段として

例:社会変容にむけた手段として、SDGsの達成にむけた手段として

パートナーシップの多義性

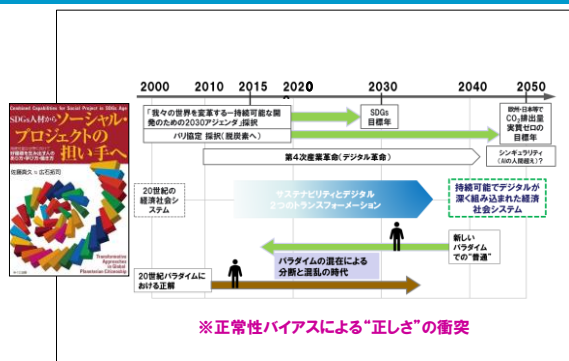
権利として

例:誰一人とり残さない社会づくりのための参加の場づくり、包容的社会づくり、参加の権利として、基本的人権として

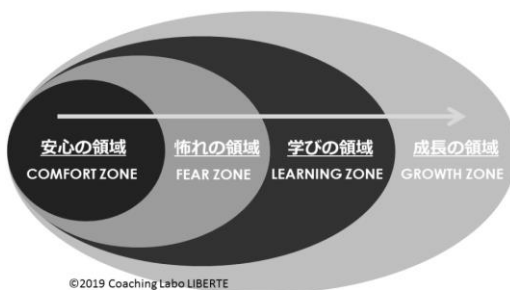
目的として

例:個人の学びを深めるため、チーム学習を深めるため、社会的関係性の構築、アイデアの共有、レジリエント社会を構築する、主体形成

変容の時代に
正解のない問いを共に生きる

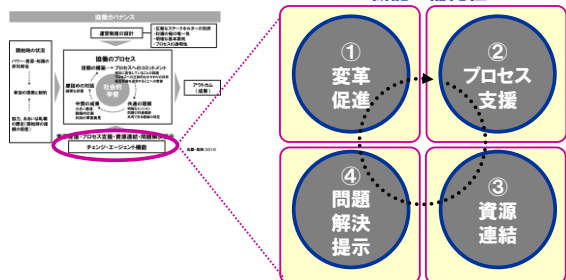


求められるコンフォート・ゾーンからの脱却と
越境コミュニケーション



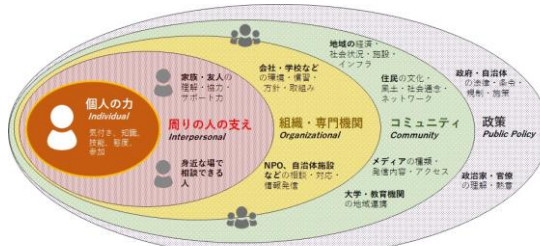
協働における
チェンジ・エージェント機能(4機能の補完性)

組織連携や組織内連携、
補完的エージェントの活用による
4機能の補完性



システムによる複雑な問題の解決へ
～社会生態モデル(SEM)

困難な状況にいる個人を教育、支援をしても、その人が力を発揮し、良い状況をつくるには、多層的な人・組織・制度などが連鎖している必要がある。



連携・協働の在り方
～協働の形態

■多様な協働の形態(事業協働、戦略協働、政策協働)

【事業協働・連携】

- (1)共同で一つの事業を行う協働の形態(共催)
- (2)「後援」という形で取組に名を連ねること。主に金銭的支出を伴わない協働の形態(後援)
- (3)それぞれの特性を活かし、一定期間継続的に協力して事業を行う協働の形態(事業協力)
- (4)独自の企画や代案をみんなて提案する協働の形態(企画立案)
- (5)新しい一つの組織を立ち上げ、そが主催者となって事業を行う協働の形態(実行委員会)
- (6)協働事業や課題に関して情報交換や意見交換を行う協働の形態(情報提供・情報交換)
- (7)優れた特性をもった組織に契約をもってゆだねる協働の形態(委託・指定管理者制度)
- (8)公益上必要があると認めた場合、行政が公金を支出する協働の形態(補助・助成)

【戦略協働】

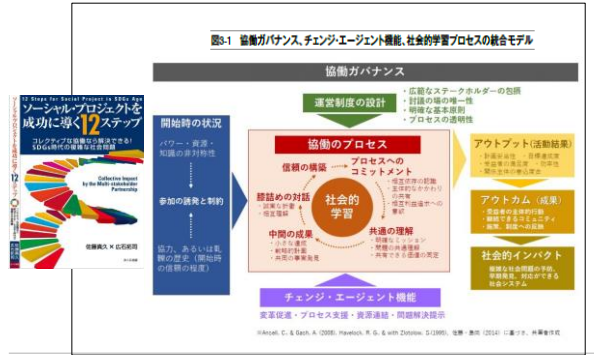
・共有目的を実現するために戦略的に協働(戦略協議など)を行う形態(戦略協働)

【政策協働】

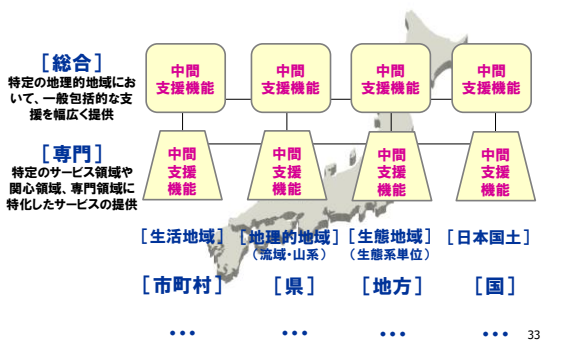
・共有目的を実現するために行政と政策的に協働(政策提案など)を行う形態(政策協働)

せんだいみやぎNPOセンター(2007)に基づき筆者加筆修正

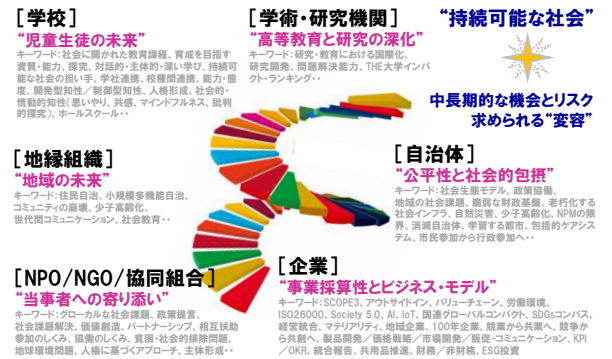
協働のしくみ
(佐藤・広石, 1998)



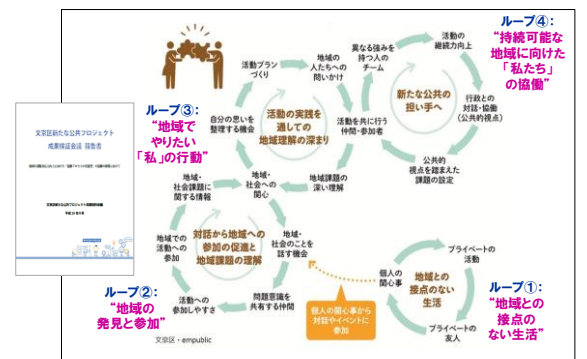
求められる中間支援機能
中間支援機能の有機的な連関(行政区分、経済地域・生命地域)



SDGsの取り組み様々な主体と異なる動機
～目標としてのSDGs, ツールとしてのSDGs



参加のしくみ
(文京区・empublic, 2016)



「新たな公共の担い手」を育む「参加のしくみ」(文京区・empublic, 2016) Masahisa SATO, Ph.D. 35